縛り付ける鎖

光琉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
縛り付ける鎖

【Ｎコード】
Ｎ８８６２Ｈ

【作者名】
光琉

【あらすじ】
カカシが好きになる人は必ず死ぬ？ナルトが暗部総隊長でカカシ先生が女の子♪耐性があるひとのみ見てください♪
感想お願いします。

本編

オレは人を好きになってはいけない…。いけないんだ…。

……オレが一番知られてはいけないことは、オレの性別が女だといこと…。

でも今日もうひとつ出来てしまった…。

それはナルトこと暗部総隊長雨月様を好きになってしまったこと…。

オレが付き合うひとは絶対に死ぬ…。

だからオレは人と付き合ってはいけない。

でも、この気持ちを抑えられなくて…。

だから告白しようと思う。

幸か不幸か誰もオレの性別が女ということは知らない。（火影様を除く）もちろん雨月様も。だから男だと思われてる。男に告白なんてされたら、気持ち悪いから断るデショ…。ホントは愛し愛されたいけど…。雨月様が死んだらオレは生きていけない。だから振られてきっぱり諦めようと思う。　で、いま雨月様…今はナルトか…。が待っている中庭へ。

「待った？」

「遅い！で用件は？」

「あの、オレ、ナルトのことが好きなんだ！」

「は？気持ち悪い事言うなよ…。女ならまだしも、お前男だろ？疲れてんだ。冗談に付き合ってられない。」

「そっか…。そう…だよねぇ。分かった。バイバイ。ナルト。」オレは走り去る。そう。これはオレが悪いんだ。オレがこんな体質だから…。でも…やっぱキツイな…。

……ＡＭ６：００

「おっはよってばー！サクラちゃん。サスケ！」

「おはよ。ナルト。」　「はよ…。」

「今日は何時間後に来るかな。カカシ先生。私二時間後」
「じゃぁ三時間後」
「ナルトは？」
「来ない…。」
「なにいってんのよ！ナルト。」
「そーだよ？」
「「！！！」」」
「オハヨー（＾ー＾＊）／皆…。」　「なんでこんなに早いの！？」
一人で居るのが辛かったから。
「オレもたまには早く来るの！さて、今日の任務は…この薬草をとってくること！少ししかない貴重な花だから丁寧に扱えよ。では、散！」皆一斉にいく。一人除いて。
「…行かないんですか？」
「影分身に行かせた。」
「またそうやって…。」いまは二人きりになりたくないのに…。今日に限って…。
「今日平然と現れるってことは、昨日のは俺をからかっていたって事か…。」違うっ！からかってなんかないっ…。
「…」
「黙ってるってことはホントって事か」違うっ！違うのに…。
「！！！」ボンッ。ナルトの姿が消える。
「終わったってば～」
「終わった…」
「終わったわ。」
「ん。ご苦労様。じゃ、行こうか。」
……暗い森の中…。
「「！！！」」
「三人とも集まって！」すぐに集合する。。すると二つの黒い影が木陰から飛び出す。
「木ノ葉の暗部がオレ達になんのよう？」

「うずまきナルトを渡して貰おう。」オレは自分の顔から血の気が引くのが分かった。
「どうして？お前達にナルトを渡してやる義理はないはずだが？」
「化け狐を殺して、英雄になるのさ！」
「狐？ナルトのこと？」
「なんだ？知らないのか？…あぁそうだよな。お前達は知らなくてもおかしくない。」
「…やめっ！」だめっ！また…またナルトが一人になっちゃう…！
「こいつはなぁ十三年前、里を壊滅に追い込んだ、九尾の妖孤なんだ…」言い終わる前に片方の喉にクナイを投げ殺す。
「それ以上言うな！ナルトが嘘つきの化け物だったら、オレだって嘘つきの化け物なんだから…！」オレは苦痛に顔を歪めながら言った『？？？』
「五歳で下忍、六歳で中忍、十三歳で上忍。異様デショ？なんでか教えてあげる。オレの腹の中には世界を壊滅に追い込んだ零尾が封印してあるから。だから、ナルトに向けられる冷たい瞳だってオレに向けられるはずだった。嫌われるのはオレ一人でよかった！やっと…やっとナルトに仲間が出来たのに…！おまえら絶対許さない…！」
「「「……」」」
「ごちゃごちゃうるせーな！いいからそこの化け狐を渡せ！」
「いやだね！」
「こーなったら力ずくだな。」暗部の男が手を挙げる。すると三人の暗部が現れる。
「「「！！！」」」オレはとっさにクナイを構え写輪眼を出す。雨月様は死なせない…。オレが命に変えても護る…。三人がオレに襲い掛かってくる。ザッ。
「一人目…。」
「うらぁ！」キン！ザッ！
「二人目…」ザッ！

「くっ…」横腹を切られた…。オレはとりあえず間合いをとるため、三人のもとへいく。
「先生！大丈夫？」
「ウスラトンカチ…」
「…」
「だい……丈夫…だよ？」血を固まらなくする毒か…。今日に限って薬草をもってないなんて…。向こうが動こうとする。オレは皆を守るために立つ。
「っ…」
「先生！」
「カカシ。まだ無理だろ！」
「無理じゃないよ！オレがお前ら守らないで誰が守るっていうの？」
「オレ。」
「「！？」
「ナルト！こんなときにでしゃばんないで！」
「ウスラトンカチ！」
「でしゃばってるわけじゃねぇよ。こいつらに勝てるのは多分俺だけだ…。」
「ナルト」
「お前本当にナルトか？」
「あぁ。正真正銘うずまきナルトだが？」
「雰囲気が全然違う…。」
「カカシ。お前はこれのんで休んどけ。」ナルトはオレに向かって解毒剤を投げてくる。
「でも…」
「いいから！オレの言うことが聞けないのか？」ダメ…。意識が朦朧としてきた。そのままオレの意識は途切れた。
……次に目が覚めたのは、誰も居ない真っ白な部屋。やっと意識がはっきりしてきて、ここが病院の病室だということがわかった。

「！女の身体に戻ってる。」誰にも見られてないよね…？！！人がくる！オレはとっさに印を組み、男に変化する。と、同時にドアがあく…。
「ナルト…」
「身体は？」
「あ…うん大丈夫…」
「…変化解け。」びくっ
「え？変化なんかしてないよ？」
「嘘だろ？だってここまで運んできたのはオレなんだから。」
「／／／／！」オレはバッとシーツにくるまる。恥ずかしい恥ずかしい恥ずかしい！！！見られた！一番バレてほしくないひとに…。
「なんで、告白の時自分は女だ。って言わなかったんだ？」だって…
「！！！」後ろからナルトに抱きしめられ耳元でささやかれる。
「カカシ。どうして？」
「だって…。」
「ん？」ポンッ。オレは変化を解く。
「だって、オレと付き合う人は皆死んじゃうから…。でも気持ち抑えられなくて…だからきっぱり振られて諦めようって…。ナルトが死んだらオレ…。生きていけないもん。」
「カカシ。」
「な…なんですか？」怖い…。嫌われちゃうよね…。こんなんじゃ。
「好きだ…。」
「…え！？」
「だから、好きだって言ってんだ。」
「オレが女だから？」
「ちげーよ。男のときから好きだった。俺は性格ねじまかってるから、一回振って、次の日落ち込んでたりしたら、からかいとか冗談半分じゃないって判断してたんだ。」
「で…でもオレ、貴方とは付き合えません…。」「死ぬからなんだってんだ？俺は死ぬのなんて怖くないが…？」

「……」
「俺と付き合ってくれないか？カカシ。」
「…はい。」

End

オマケ

後日談…

サスケとサクラがナルトを引きずって見舞いにきた。「ナルトの事は、ナルトから詳しく聞いたわ。」「次はカカシ。自分の事を話せ。」「ナルト…。ばらしちゃったんですか？」「ちがう！サクラに脅迫された…」「あはは…。」「ってカカシ！敬語やめろっつったろ！」「そ、それはまだ無理ですぅー…。いいじゃないですか。プライベートでな、ナルトって呼び捨てにしてるんですから…。」「で？」「え、えっと…オレはホントは女で…」「「女！？」」「カカシ。変化解かないとダメだろ。」「そっか…。」ポンッ。オレは変化を解く。「カカシ先生綺麗！」「／／／／」「サスケ。こいつ俺のだから手ぇ出すなよ。」「ちっ…」「で、腹のなかに零尾がいる。」「先生。零尾って？」「今呼んでみる。」「「「呼ぶ？」」」「零さん～。零さん。」するとベッドの隣が光りはじめ、その光が人の形に。「「「！！！」」」「お久しぶり。カカシちゃん。」「お久しぶりです。零さん。」「だからぁ、敬語やめてってば」「無理ですって。ってあれ？皆どうしたの？」「零尾って人？」「ってかそもそも話できんのかよ。」「ありえねぇ」「あら、九尾だってできるはずよ？えーと」「ナルト。」「ナルト君。九重って読んでみて。」「…。九重。九重。」すると、光の玉が出てくる。それがみるみる人の形になる。「ふわぁぁ。よくねたぁ。」「九重…よくねたじゃないでしょ！？ちゃんと挨拶！」「姉ちゃん！ええっと、こんにちは。九尾の九重と申します。以後お見知りおきを。って、姉ちゃん！ずりー。そんな綺麗なひとがご主人だなんて。」「なにいってんのよ！あんただってそんなカッコイイひとがご主人だなんてずるいわっ。」「じゃぁ交換する？」「ダメッ！」「カカシは」「ナルトは」「「オレ（俺）の！」」

End

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8862h/

縛り付ける鎖

2010年10月8日15時33分発行